

令和3年度 総合評価方式における基本方針の見直し

総合評価方式における適用範囲、評価項目、配点および運用など、各方面からの意見等を踏まえ、受発注者双方がより効果的な運用が図れるよう、以下のとおり見直しを行う。

【見直しの方針】

1. 防災・減災、国土強靱化の取組の加速化・深化など社会基盤整備・維持管理の円滑な実施
2. 受注機会の拡大・均等化の推進
3. 評価内容の適正化

I 建設工事に係る総合評価方式の見直し

1) 適用範囲の運用【方針1、2】

- ・ 価格競争選択可の範囲および一部のタイプの緩和措置の運用を継続
- ・ 舗装工事以外の特別簡易型Ⅰ型A・Bの一部で施工実績を評価項目としない特別簡易型Ⅱ型A・Bに見直し

2) 評価内容・方法等の見直し【方針2、3】

① 主たる営業所の有無

- ・ 「必須」項目から「選択」項目に見直し、対象工事の発注状況に応じて設定

② 現場見学会の開催

- ・ 「必須」項目から「選択」項目に見直し、対象工事を工事内容に応じて設定

③ 若手・女性技術者の配置

- ・ 若手技術者の対象年齢を「35歳未満」から「40歳以下」に見直し
- ・ 優秀な若手技術者もしくは優秀な女性技術者（「滋賀県若手技術者・女性技術者土木交通部長表彰」の被表彰者またはこれに相当する技術者）の配置を評価

④ その他、発注機関による独自設定項目

- ・ 「企業における滋賀県被災建築物応急危険度判定士の資格保有者（2名以上）の雇用」、「難工事指定された工事の施工実績」を設定事例に追加
- ・ 設定内容に応じて、配点を1.0点に引き上げできる

II 建設コンサルタント業務に係る総合評価方式の見直し

1) 適用範囲の運用【方針1】

- ・ 価格競争選択可の運用を継続（業務Aの2,500万円未満）

I 建設工事に係る総合評価方式の見直し

1) 適用範囲の運用

受発注者双方の事務量の低減による事業の着実な推進および受注機会の拡大による建設産業の活性化を図るため、以下の運用とする。

○暫定措置の継続

- 工事規模7千万円以上2億円未満の工事難易度ⅠからⅢの工事（舗装工事は、工事規模2.5千万円以上5千万円未満の工事難易度ⅠからⅢの工事）において、価格競争を選択可能とする。
- 舗装工事以外の工事規模3億円以上10億円未満の工事難易度ⅠからⅡの工事および工事規模2億円以上10億円未満の工事難易度ⅠからⅢの工事において、タイプを緩和する。

○タイプの変更

- 以下に該当する舗装工事以外の工事において、特別簡易型Ⅰ型A・Bとしていたものを、施工実績の評価を評価項目としない特別簡易型Ⅱ型A・Bとする。
 - ① 工事規模2億円以上3億円未満の工事難易度Ⅰの工事
 - ② 工事規模1.2億円以上2億円未満の工事難易度Ⅱの工事
 - ③ 工事規模7千万円以上1.2億円未満の工事難易度Ⅲの工事

●R3年度 総合評価方式(舗装工事以外)の適用タイプ選定表(暫定)

〈図〉

| | | | | | |
|----------|--|--|------------------------|----------------|----------------|
| (工事規模) | WTO標準型 | | | | 高度技術提案型 |
| 23億円以上 | | | | | |
| 10億円以上 | 標準型 II型A・B | 標準型 I型 | | | |
| 5億円以上 | 簡易型 A・B (暫定) | 標準型 II型A・B (暫定) | | | |
| 3億円以上 | 特別簡易型 I型A・B (暫定) | 簡易型 A・B (暫定) | 標準型 II型A・B | | |
| 2億円以上 | 特別簡易型 I型A・B ↓ 特別簡易型 II型A・B | 特別簡易型 I型A・B | 特別簡易型 I型A・B (暫定) | 簡易型 A・B | |
| 1.2億円以上 | 価格競争 選択可 | 特別簡易型 I型A・B ↓ 特別簡易型 II型A・B | 価格競争 選択可 | 特別簡易型 I型A・B | |
| 7千万円以上 | 特別簡易型 II型A・B | 特別簡易型 I型A・B ↓ 特別簡易型 II型A・B | | | |
| 2.5千万円以上 | 価格競争による | | | | |
| | I | II | III | IV | V以上 (工事難易度) |

- 暫定措置(タイプの緩和)
- 暫定措置(価格競争選択可)
- タイプの変更

●R3年度 総合評価方式（舗装工事）の適用タイプ選定表（暫定）

<図>

| | | | | | |
|----------|------------------|-----------------|-------------|--------------|----------------|
| (工事規模) | WTO標準型 | | | | 高度技術提案型 |
| 23億円以上 | | | | | |
| 5億円以上 | 標準型 II型A, B | 標準型 I型 | | | |
| 3億円以上 | 簡易型 A, B | 標準型 II型A, B | | | |
| 2億円以上 | | | 簡易型 A, B | | |
| 5千万円以上 | 特別簡易型 II型A, B | 特別簡易型 I型A, B | | | |
| 2.5千万円以上 | 価格競争 選択可 | 特別簡易型 II型A | 価格競争 選択可 | 特別簡易型 I型A | |
| 1千万円以上 | 価格競争による | | | | |
| | I | II | III | IV | V以上 (工事難易度) |



暫定措置（価格競争選択可）

2) 評価内容・方法等の見直し

- ①【主たる営業所の有無】を「必須」項目から「選択」項目に見直し
- ②【現場見学会の開催】を「必須」項目から「選択」項目に見直し
- ③【若手・女性技術者の配置】で若手技術者の対象年齢を「35歳未満」から「40歳以下」に見直すとともに優秀な若手技術者もしくは優秀な女性技術者の配置を評価
- ④【その他、発注機関による独自設定項目】の設定事例に「企業における滋賀県被災建築物応急危険度判定士の資格保有者（2名以上）の雇用」、「難工事指定された工事の施工実績」を追加するとともに設定内容に応じて、配点を1.0点に引き上げできる

■主たる営業所の有無（適用：特別簡易型Ⅰ型A、特別簡易型Ⅱ型A、地域の担い手育成モデル工事）

入札公告日における「主たる営業所（本社・本店）」の所在地の位置について評価を行い、以下の評価点を加算点として与える。本評価項目は、地域の建設産業の活性化を図るため、発注機関の工事発注状況に応じて設定する。なお、本評価項目でいう「営業所」とは、建設業法第3条第1項の規定による許可を受けた営業所をいう。

●主たる営業所の有無

| 区 分（主たる営業所の有無） | 評価点 |
|-----------------------------|-----|
| 「主たる営業所（本社・本店）」が発注土木事務所の 管外 | 0 |
| 「主たる営業所（本社・本店）」が発注土木事務所の 管内 | 1.0 |

※長浜土木事務所管内は、木之本支所管内と旧長浜土木管内を区分する。

※地域の担い手育成モデル工事は配点を2.0点とする。

■現場見学会の開催（適用：高度技術提案型、WTO標準型を除く全タイプ）

建設産業魅力発信のため、現場からの積極的な情報発信が求められていることから、現場環境改善費を利用し、ものづくりの見える化に配慮した資料を用いた「現場見学会の開催」を評価の対象とする。

なお、本評価項目は、現場環境改善費を計上している工事において、原則として工事内容に応じて一層、効果的・効率的に建設工事の魅力を発信できる工事に設定する。

評価の対象としては、「ものづくりの見える化」に配慮した、施工段階や工事プロセスをわかりやすく説明できる資料を用いた現地見学会またはリモート方式（※1）（以下、現地見学会等）により開催することに対して、下表に該当する評価点を加算点として与える。

履行確認の方法は、工事着手時に、施工計画書に見学会の概要を記載した上で、見学会用の資料の確認を経て、現地見学会等の開催をおこなうこととする。

なお、「あり」と評価した場合において、受注者の責めに帰すことにより現地見学会等が開催できなかった場合は、工事成績において減点措置を行う。

●現場見学会の開催

| 区 分 (現地見学会等の開催) | 評価点 |
|-----------------|-----|
| 現地見学会等の開催 なし | 0 |
| 現地見学会等の開催 あり | 1.0 |

※1

- ・工事現場の様子を映像で視聴する（学校などに集まる方法や自宅などで個別に参加する方法）
- ・必ずしも工事現場のライブ配信を行う必要はない
- ・事前に工事現場を撮影した映像を活用しても良いが、写真や図面のみによる工事現場の説明は不可
- ・インターネット動画の一方的な配信は不可

■若手・女性技術者の配置（適用：特別簡易型Ⅰ型A・B、特別簡易型Ⅱ型A・B、地域の担い手育成型モデル工事）

品確法の改正により、若手や女性の技術者の長期的な確保や育成が喫緊の課題であることから、「若手・女性技術者の配置」について評価を行う。

評価の対象としては、「**入札公告日の属する年度の4月1日において35歳未満40歳以下**」もしくは「**女性**」の**優秀な技術者**または技術者を「**監理技術者**または**主任技術者**（この評価項目において、「**監理技術者等**」という。）」または「**専任の技術者**」として当該工事に配置することを評価する。（なお、途中交代は原則認めない。）

技術提案書提出時に「監理技術者等」を特定できない場合は複数名申請することができる。

ただし、「監理技術者等」は、発注工事業種に適応した監理技術者または主任技術者の要件を満たす者とする。また、「専任の技術者」は、発注工事業種に適応した主任技術者の要件を満たす者とする。（2級国家資格者等も可とする。）

●若手・女性技術者の配置

| 区 分 (若手・女性技術者の配置) | 評価点 |
|---|-----------------------|
| 「若手技術者ないしは女性技術者」の 配置なし | 0 |
| 「若手技術者ないしは女性技術者」を 専任の技術者として配置する | 0.5 |
| 「若手技術者ないしは女性技術者」を 監理技術者等として配置する | 1.0 0.7 |
| 「 優秀な若手技術者ないしは優秀な女性技術者 」(※1)を監理技術者等として配置する | 1.0 |

※1 令和元年度または令和2年度における「**滋賀県若手技術者・女性技術者土木交通部長表彰**」の被表彰者、またはこれに相当する技術者（※2）であり、「**入札公告日の属する年度の4月1日において40歳以下の技術者**」もしくは「**女性の技術者**」であるもの

※2 滋賀県等が発注した当初請負金額が250万円以上の建設工事に監理技術者等として従事し、その工事における工事成績評定点が80点以上であること。ただし、工事成績評定点の項目のうち、「**法令遵守等**」の項目で減点がある建設工事は対象外とする。

なお、この場合、必要な要件を満たしていることが確認できる資料の提出を求める。

■その他、発注機関による独自設定項目（適用：特別簡易型Ⅰ型A、特別簡易型Ⅱ型A）

各発注者で、その発注管内の地域性等を考慮した独自の評価項目設定を可能とし、評価した場合に0.5点**または1.0点**を加算点として与える。この項目を設定しようとするときは、

その内容および配点について入札公告前にあらかじめ総合評価審査委員会審査部会に諮ることとする。

なお、設定にあたっての方針は以下のとおり。

○特定の入札参加者が、著しく有利に働くような評価項目の設定は避ける。

○他の評価項目における配点の上乗せは原則として認めない。ただし、「⑩除雪作業等」において、除雪作業等の継続実績評価を行う場合に限り、各発注機関の判断により本項目の 0.5 点を上乗せすることは可能とする。

○設定内容に応じて配点を 1.0 点に引き上げできる

○設定事例

- ・ 快適トイレの設置
- ・ 監理技術者等に「技術士」の資格を有する者を配置
- ・ 建設キャリアアップシステム（CCUS）の元請企業の事業者登録および活用
- ・ 企業における滋賀県被災建築物応急危険度判定士の資格保有者（2名以上）の雇用
- ・ 難工事指定された工事の施工実績

●その他、発注機関による独自設定項目

| 区 分（その他、発注者による独自設定項目） | 評価点 |
|-----------------------|-----------|
| 設定項目に対して 評価できない場合 | 0 |
| 設定項目に対して 評価できる場合 | 0.5 (1.0) |

総合評価方式の各種タイプにおける評価項目設定一覧表

◎：必須の評価項目 1（全工事で共通した内容で設定するもの）
 ○：必須の評価項目 2（工事毎に選択しながら、必須として設定するもの）
 △：選択の評価項目（工事毎に評価項目として設定するかどうかを判断するもの）

| 番号 | 評価の視点 | 評価項目 | 配点 | 総合評価タイプ | | | | | | | | | | | | 備考 | | |
|-----------|------------|-------------------------------------|--------------------|-------------------------|-------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|----------------------------|----------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|------------------|------------------|---|----|----------------------------|----------------------------|
| | | | | 高度技術提案型 | WTO標準型 | 標準型 I 型 | 標準型 II 型 A | 標準型 II 型 B | 簡易型 A | 簡易型 B | 特別簡易型 I 型 A | 特別簡易型 I 型 B | 特別簡易型 II 型 A | 特別簡易型 II 型 B | | | | |
| ① | 高度な技術提案 | 総合的なコストの縮減に関する提案【総合コスト】 | 工事毎に設定 40～50点 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 工事目的物の性能・機能の向上に関する提案【性能・機能】 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 社会的要請への対応に関する提案【社会的要請】 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| ② | 技術提案 | 施工管理（工程管理・出来形管理・品質管理）方法に関する提案【施工管理】 | 4.0点※ (1着目点あたり) | | | | | | | | | | | | | | ※WTO標準型、標準型 I 型については個別設定する | |
| | | 工事目的物の品質や耐久性向上に関する提案【目的物の品質】 | 4.0点※ (1着目点あたり) | ○ 工事毎に個別設定 40～50点 | ○ 工事毎に 4～6着目点を設定 24点 | ○ 工事毎に 3着目点を設定 12点 | ○ 工事毎に 3着目点を設定 12点 | ○ 工事毎に 1着目点を設定 4点 | ○ 工事毎に 1着目点を設定 4点 | | | | | | | | ※WTO標準型、標準型 I 型については個別設定する | |
| | | 工事施工において配慮すべき提案【施工上の課題】 | 4.0点※ (1着目点あたり) | | | | | | | | | | | | | | | ※WTO標準型、標準型 I 型については個別設定する |
| ③ | 企業の施工能力 | 企業の実績 | 2.0 | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | | |
| ④ | | 主観点数（工事成績等） | 3.0 | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | |
| ⑤ | | i-Constructionへの取組 | 1.0 | | | | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | | |
| ⑥ | | I C T の取組実績 | 2.0 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑦ | 技術者等の能力 | 配置予定技術者等 C P D | 1.0 | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| ⑧ | | 配置予定技術者等の実績 | 1.0 | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| ⑨ | | 配置予定技術者等の資格 | 0.5 | | | | | | | | △ | △ | △ | △ | △ | △ | | |
| ⑩ | | 技能者の資格 | 1.0 | | | | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | | |
| ⑪ | 企業の地域性・社会性 | 防災協定の締結 | 1.0 | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | |
| ⑫ | | 防災協定の締結および重機保有 | 1.0 | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | |
| ⑬ | | 防災防への加入および活動実績 | 0.5 | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | |
| ⑭ | | 県内営業所の有無 | 3.0 | | | ◎ | | ◎ | | ◎※ | | ◎※ | | ◎※ | | ◎※ | ※簡易型、特別簡易型は1.5点 | |
| ⑮ | | 主たる営業所の有無 | 1.0 | | | | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | |
| ⑯ | | 除雪作業等（※1） | 1.0 | | | | | | | △ | | △ | | △ | | △ | | |
| ⑰ | | 県内企業の下請活用（※2） | 2.0 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ⑱ | | 現場見学会の開催（※3） | 1.0 | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| ⑲ | | 県産材の使用（※4） | 0.5 | | | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | |
| ⑳ | | 若手・女性技術者の配置 | 1.0 | | | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| ㉑ | | 週休2日工事の取組実績 | 1.0 | | | | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| ㉒ | | その他、発注機関による独自設定項目 | 0.5※ | | | | | | | | | △ | | △ | | △ | ※設定内容に応じて1.0点とできる | |
| ㉓ | | 管内企業の下請活用 | 0.5 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ㉔ | | 手持ち工事量 | 2.0 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 配 点 合 計 | | | | 40 ～ 50 | 40 ～ 50 | 33 ～ 34.5 | 20.5 ～ 24 | 22 ～ 25.5 | 12.5 ～ 17 | 12.5 ～ 16.5 | 12.5 ～ 19.5 | 10.5 ～ 14.5 | 9.5 ～ 16.5 | 7.5 ～ 11.5 | | | | |
| 最大加算点 合 計 | | | | 40 ～ 50 | 40 ～ 50 | 33 ～ 34.5 | 20.5 ～ 24 | 22 ～ 25.5 | 12.5 ～ 17 | 12.5 ～ 16.5 | 12 ～ 19 | 10.5 ～ 14.5 | 9 ～ 16 | 7.5 ～ 11.5 | | | | |

※1：「土木一式工事」ないしは「舗装工事」の場合、設定する。
 ※2：県内に特殊工事を下請負できる企業が存在しないことが明らかな場合は対象外とする。
 ※3：建設工事の魅力発信に適した工事の場合、設定する。ただし、「現場環境改善費」を計上していない場合は対象外とする。
 ※4：使用資材に県産材が無いなど設定することが不適切と判断される場合は対象外とする。

モデル工事における評価項目設定一覧表

◎：必須の評価項目 1（全工事で共通した内容で設定するもの）
 ○：必須の評価項目 2（工事毎に選択しながら、必須として設定するもの）
 △：選択の評価項目（工事毎に評価項目として設定するかどうかを判断するもの）

| 番号 | 評価の視点 | 評価項目 | 配点 | 特別簡易型 I・II型A | | モデル工事 | | | 備考 |
|-------|------------|--------------------|-----|-----------------|-------------|----------------|---------------|---------------|----|
| | | | | 通常 (I型) | 通常 (II型) | 地域の 担い手育成 | 受注機会 促進 | ICT実績評 価 | |
| ③ | 企業の施工能力 | 企業の実績 | 2.0 | ◎ | | × | × | × | |
| ④ | | 主観点数（工事実績等） | 3.0 | ◎ | ◎ | × | × | × | |
| ⑤ | | i-Constructionへの取組 | 1.0 | △ | △ | × | × | × | |
| ⑥ | | ICTの取組実績 | 2.0 | | | × | × | ◎2.0 | |
| ⑦ | 技術者等の能力 | 配置予定技術者等CPD | 1.0 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| ⑧ | | 配置予定技術者等の実績 | 1.0 | ◎ | | × | × | × | |
| ⑨ | | 配置予定技術者等の資格 | 0.5 | △ | △ | × | × | × | |
| ⑩ | | 技能者の資格 | 1.0 | △ | △ | × | × | × | |
| ⑫ | 企業の地域性・社会性 | 防災協定の締結および重機保有 | 1.0 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| ⑬ | | 防災防への加入および活動実績 | 0.5 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| ⑮ | | 主たる営業所の有無 | 1.0 | △ | △ | ◎2.0 | × | × | |
| ⑯ | | 除雪作業等（※1） | 1.0 | △ | △ | △ | × | × | |
| ⑰ | | 県内企業の下請活用 | 2.0 | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| ⑱ | | 現場見学会の開催（※2） | 1.0 | △ | △ | △ | △ | △ | |
| ⑲ | | 県産材の使用（※3） | 0.5 | △ | △ | △ | △ | △ | |
| ⑳ | | 若手・女性技術者の配置 | 1.0 | ◎ | ◎ | ◎ | × | × | |
| ㉑ | | 週休2日工事の取組実績 | 1.0 | ◎ | ◎ | ◎ | × | ◎ | |
| ㉒ | | その他、発注機関による独自設定項目 | 0.5 | △ | △ | × | × | × | |
| ㉓ | | 管内企業の下請活用 | 0.5 | | | ◎ | × | × | |
| ㉔ | | 手持ち工事量 | 2.0 | | | × | ◎2.0 | × | |
| 加算点合計 | | | | | | 9 ～ 11.5 | 6.5 ～ 8 | 7.5 ～ 9 | |

※1：「土木一式工事」と「舗装工事」の場合に設定する。

※2：建設工事の魅力発信に適した工事の場合、設定する。ただし、「現場環境改善費」を計上していない場合は対象外とする。

※3：使用資材に県産材が無いなど設定することが不適切と判断される場合は対象外とする。

Ⅱ 建設コンサルタント業務等に係る総合評価方式の見直し

1) 適用範囲の運用


受発注者双方の事務量の低減を図り、事業を着実に推進するため、難易度（業務A）の業務規模2,500万円未満の「価格競争選択可」の運用を継続する。

●令和3年度 総合評価方式（建設コンサルタント業務）の適用タイプ選定表（暫定）

建設コンサルタント業務の総合評価のタイプは、業務規模および業務の区分（難易度）から下図により選定する。

<図>

| | | | |
|--------------|---------------|---------------------|---------------|
| (業務規模) | 業務特別簡易型 Ⅱ型 | 業務特別簡易型 Ⅰ型 | 業務標準型 |
| 2500万円 以上 | | | |
| 1000万円 以上 | 価格競争による | 一部 業務特別簡易型 Ⅱ型 | 業務特別簡易型 Ⅰ型 |
| | | | 価格競争 選択可 |
| | | | 業務特別簡易型 Ⅱ型 |
| | 業務C | 業務B | 業務A (難易度) |

 暫定措置（価格競争選択可）

○総合評価方式の評価項目設定一覧表

| 番号 | 評価の視点 | 評価項目 | 配点 | 総合評価タイプ | | |
|----------|--------|-----------------------------|---------------------------------|---------|-------------|--------------|
| | | | | 業務標準型 | 業務特別簡易型 I 型 | 業務特別簡易型 II 型 |
| ① | 技術提案 | 総合的なコストの縮減に関する提案【総合コスト】 | 業務毎に 2つの着 目点を設 定 8点 | ○ | | |
| | | 業務目的物の性能・機能の向上に関する提案【性能・機能】 | | | | |
| | | 社会的要請への対応に関する提案【社会的要請】 | | | | |
| ② | 実施方針 | 業務目的・業務内容、 実施フロー | 4点 | ○ | ○※1 | ○※1 |
| ③ | 技術者の能力 | 配置予定技術者の実績 | 1点 | ○ | ○ | |
| ④ | | 配置予定技術者または担当 技術者の資格 | 1点 | △ | △ | △ |
| ⑤ | | 配置予定技術者CPD | 1点 | ○ | ○ | ○ |
| ⑥ | | 配置予定技術者の表彰の有 無 | 1点 | △ | △ | △ |
| ⑦ | 企業の能力 | 企業の実績 | 2点 | ○ | ○ | ○ |
| ⑧ | | 県内営業所の有無 | 1点 | △ | △ | △ |
| ⑨ | | 防災協定等の締結 | 1点 | ○ | ○ | ○ |
| ⑩ | | 独自設定項目 | 0.5点 | | △ | △ |
| 技術評価配点合計 | | | | 17~20 | 9~12.5 | 8~11.5 |

※1：業務特別簡易型 I 型・II 型は、白紙提出でないこと、業務内容と合致していることのみ判断する。

○：必須の評価項目（必須として設定するもの）

△：選択の評価項目（業務毎に設定を判断するもの）